

パリ&ブルゴーニュ運河クルーズの旅

Y.Y

旅程：2013年7月4日～7月19日

7月4日～6日 パリ ホテルヴァンドーム

7月6日～13日 ベル・エポック号 リバークルーズ

7月13日～18日 パリ ウェストミンスターホテル

パリ

パリには早朝到着。予約していたリムジンで宿泊ホテルへ向かう。スーツケースを預け朝食を近くのカフェでとる。7月とはいえ肌寒い。ホテルはネットで予約した為少し不安だったが、ヴァンドーム広場からチュルリー公園方面100m位の場所にあり、こじんまりしているがフロントやベルボーイの対応が親切で一安心した。

寝室も広くバスルームやパウダールームも広々ゆったりかつ掃除が行き届いている。ハウスキーパーもフレンドリーで気持ち良くすごせるホテルであった。

(これまで宿泊したことがあるメリディアン、ニッコー、スクリーブより部屋やバスルームが広く、対応も親切) 近くにはカフェ、ベーカリー、カジュアルなレストラン、スーパーがあり何かと便利。

後日聞いた話によるとこの夏は暖かくなるのが遅く6月は雨が多くダウンが必要だったとのこと。クルーズからパリへ戻った時は一気に夏真っ盛りだったが、日差しは強いものの湿度が低くさわやかであった。

パリではルーブル、オルセー、オランジュリー美術館、モンマルトル丘、ノートルダム寺院と王道の観光コースを地下鉄利用により1日1ヶ所ずつ歩く。ピカソ美術館はようやく探しあてたが休館日だった。ぶらぶらしながらカフェやブティック、雑貨屋、レストランに入り気ままな一日を過ごした。

ウェストミンスターホテルはヴァンドーム広場から滞在ホテルと反対方向に100mほど離れている。石畳みの上をスーツケースを転がすのは大変だと思っていたが、ベルボーイがタクシー手配をしてくれて助かる。(タクシーは200mほどの距離でも愛想よく乗せてくれた) ウェストミンスターホテルは風格がありロビーはゆったりしているが部屋や清掃レベルに不満が残る。

ブルゴーニュ運河クルーズ (ベル・エポック号) VenareyからTanlayへ

パリの集合ホテルから4～5時間ドライブとやや遠いが、乗船場に夕方到着。静かな村の木々に囲まれた川に小さな船〔ベルエポック号〕が停泊していた。クルーが笑顔一杯で迎えてくれる。クルーとゲストの自己紹介。

私達夫婦は日本から来たモトとユキで英語があまり話せないことや1年前のテレビ放映でクルーズを知り念願がかなってようやく来れたこと、楽しい旅を期待していること等を話す。他のゲストはアメリカ、イギリス、ノルウェイの夫婦。みんな初対面なのでやや緊張した面持ちだが、笑顔でゆっくりと話をしてくれる。日本人の参加は初めてとの事だ。

クルーはキャプテン以下パイロット、シェフ、客係等計6名ときめ細かなサービスが期待できる。

食事 毎回当然ながら洋食であり、普段少食な私達があまり食べられなかったら申し訳ないと心配していたが、杞憂に終わる。食材の良さと丁寧な調理でどれも美味しい。キッチンに入ってみたが35度くらいの高温の中、シャイなシェフ、ケニーが一生命に調理をしていた。

朝食は8時～ビュッフェスタイル ジュース、ミルク、コーヒー、紅茶、ハム類、サラダ、チーズ、果物、ジャム、ハチミツ、村のベーカリーで買ってきたパン等 毎日目先が変わり食欲がわいてくる

昼食はデッキで 毎日メニューが変わる。メインとデザートとワイン。

ある日のメニューはシーフードパスタ、クレープシュゼット、赤・白ワインまたある日は子牛のレバーペースト焼き、黒スグリとぶどうのゼリー、ワインはロゼ等。ワインは何本でもOK。モトはアルコールが弱く飲めないが他のゲストは強い。7本目のワインをオーダーした所、クレージとにこやかに持ってきてくれた。

夕食はまずラウンジで軽食とカクテルをいただく。テーブルに移り3~4品のサラダ、メイン、チーズ、デザート。ワインは赤・白。他のゲスト達が酒豪のせい私もついつい量が増える。毎回2~3本飲んでいたと思う。時間をかけるせい酔いのまわりは遅い。

欧米人は酒に強いと聞いているが、事実であった。2~3時間かけてディナーを頂いた後、スコッチを飲む。スコッチを数杯飲むとおしゃべりのエンジンがかかる。アルコール分解酵素を多く持っている人たちは幸せだ。

過ごし方

朝食後9時30分頃出航。しばらくデッキの風にあたりすがすがしい空気を満喫した後、船を降りサイクリングや散歩をする。運河沿いの道は2m位の幅で舗装されておらず、護岸もないため多くの草花が咲いている。いずれも小さな花でかわいい。

船が水門を通るのを眺めたり、2~3か所先の水門まで先に行き船を待ったりと日本では経験しないのんびりとした時間が流れる。散歩やサイクリングに飽きる頃、ほぼランチ時間になっている。腹時計は正確だ。船に戻ると冷たい飲み物をすぐサービスしてくれる。今日のランチは何かしら、、、とデッキのテーブルを見る。

ランチ後はワインでほろ酔い気分のままデッキやラウンジでウトウトと。幸せなまどろみの時間である。

風が心地よい。船からの景色が素晴らしい。全く飽きない。

なだらかな丘一面の麦畑、放牧されている羊たち、小さな村の民家、お城、川沿いは大きな木（名前は失念）がずっと続く。枝にはところどころに鳥の巣、水面は風にゆれ魚や水鳥が泳ぐ。何十年も変わっていない情景と思える。子供のころみた絵本のような、またフランス映画でみた田舎の風景そのもの。時間が止まっている。他のゲストは電子ブックで読書、クロスワードパズル、スケッチ、ジャグジーと思いのまま過ごしている。

船が停泊する所には村が近くにあるので、夕食まで散歩に出かける。坂道を上り下りしながら小さな食料品店、教会、土産物屋等をのぞく。

夜7時からカクテルタイム、その後楽しみなディナーとなる。ディナーの席決めはアメリカ人夫妻の奥様が仕切ってくれる。毎日隣の席が変わるように気配りをしてくれた。

食事中は英語での会話だが、食事開始後は話についていこうと耳を集中させ理解していけるが、食事が進んでくると集中力が衰えてくる。しかしいいタイミングでイギリス人夫妻の奥様がダイジェストで説明をしてくれ助かる。

クルーズの途中では中世のノイヤー村、アニス入りボンボンで有名なフラヴィニウム村、フォントネー修道院、シャブリのワイナリー、タンレイの古城等を訪れる。いつまでもそこにいたいと思う場所であった。

メモ

クルーズ

2012年9月予約 申込金 1400€ 146,114円 (1€=104円)

2013年3月支払い 残金 8380€ 892,481円 (1€=106円)

滞在時 レート 1€ 134円

パリホテル

2012年日本事前決済 8泊 165,236円

エア

JLマイレージ利用 Cクラス 往 JL041便 復 JL5054便(エアバス380型 総2階)建て

感想

コストパフォーマンスが高い

クルーズにはいつの日か行ってみたいと憧れていた。若い頃は財力がない。40～50歳台は仕事で時間がない。リタイア後、健康に恵まれ少しの財力がありようやく夢がかなった。

クルーズは高価で贅沢という観念があったが初めて参加して、コストパフォーマンスが高いと思う。

ホテル、食事、酒、観光、船以外でのランチやディナー、飲物、酒等すべて含まれている。しかもすべて美味。

20歳台にはツアーに参加していたが、30歳台以降は個人旅行をしている。初めての町で色々失敗があるものの楽しい経験もしてきた。ただしいつもストレスを感じるのが食事である。

何をどこで食べるか？でつい夫婦喧嘩になる。空腹だと苛立ちも倍増される。ホテルコンシェルジェやガイドブックで調べる手間や入ったレストランがまずいと不機嫌になる。またメニューの文字がわからない国もある。その点今回はストレスが全くなく快適に過ごせた。

3か国のゲスト達からバカンスの過ごし方を学ぶ

アメリカ人夫妻は1か月間ヨーロッパ休暇、イギリス人は数回目のクルーズ参加、ノルウェイ人は冬にアジアを3週間クルーズ予定と日本人の休暇の取り方や過ごし方が違う。人生を楽しんでいる。

自分の会社員時代は9日間の休暇が最長である。

それでも休暇時期は部内で調整しながら自分の希望を通せるので恵まれている。

日本の会社員は休暇が短くGW、盆、正月と時期も集中。混雑と短い期間のためツアーで効率よく回り、《どこを見たか、証明写真》のような旅行が多くなるのも仕方がない。

今回か出会った方たちのように《いかに過ごし、何を楽しむのか》の旅が日本人ができるには何年かかるかと考え、まだまだバカンス後進国であることを痛感。

英語学習の努力不足

覚えることより忘れることが多いこの頃だが、語学は継続していないと衰えるのが速い。

旅で使う英語は不自由しなかったが、食事中の会話には不慣れ。政治・経済・宗教等の難しい話題は出てこないのだが、易しい内容でも聞き取れなくなると意見も言えない。今回のゲストは気遣いをしてくれたが改めて学習の必要性を。いまからでも遅くない。

今後も旅を続けるために、夫婦ともに健康であることが前提。健康年齢までには少し時間があるので規則正しい生活、バランスのとれた食事内容など気をつけたい。